

5/17 ②稿

4月企業物価10%上昇

過去最大、家計負担も増

日銀が十六日発表した四月の国内企業物価指数(二〇一五年平均=100)は、前年同月比10.0%上昇の一三・五だつた。十四カ月連続の上昇

品目別の
企業物価指数の伸び率
(2022年4月)

品目	伸び率
エネルギー	56.4%
資源	30.9%
生産用機器	29.9%
非耐用財	25.0%
II	10.2%
耐久財	7.4%
IV	3.7%
V	2.8%

*日銀調べ。15年平均を100とした前年同月比伸び率。速報値

で、上昇率は比較可能な一九八一年以降最大で初の二桁。指数自体も六〇年の統計開始以来で最高水準だつ

た。ロシアのウクライナ侵攻などに伴う原油や原材料の高騰に加え、円安による輸入価格上昇が影響した。

企業物価指数は、企業間で取引される商品の価格水準を示す。企業は経費削減

する商品の価格に転嫁する動きも目立つ。家計の負担は増えており、景気の先行きには暗雲が漂つ。

総務省は二十日に四月の全国消費者物価指数を発表する。変動の大きい生鮮食料品を除いた指数の前年比上昇率は三月に0・8%で、四月は2%程度に高まると予測する専門家が多い。賃金上昇の勢いが力強さを欠く中、景気回復を伴わない「悪い物価上昇」への懸念も広がっている。

企業物価指数は、企業間で取引される商品の価格水準を示す。消費者が買う商品やサービスの値動きを示す消費者物価指数とともに物価の変動状況を把握するのに用いられ、景気や金融政策などを判断する重要な材料となる。

四月の企業物価指数を品目別で見ると、金七百四十品目の約70%に上る五百三十二品目が上昇。石油・

石炭製品が30・9%上り、鉄鋼が29・9%、非鉄金属が25・0%それぞれ上昇。

新型コロナウイルス禍からの経済再開で米国などの需要が伸びた木材・木製品は56・4%、電力・都市ガス・水道は28・7%上がった。穀物相場の高止まりを受けて飲食料品も3・7%上がった。繊維製品も2・8%上昇した。

輸入品の価格水準を示す輸入物価指数の上昇率は、米ドルなどの契約通貨換算では29・7%だったが、円換算では44・6%となり、円安による押し上げ効果が目立つた。